

英語版ホームページ(HP)の制作について



気象庁 横浜地方気象台・日本蜃気楼協議会 副会長 宮内 誠司、
北見工業大学大学院・日本蜃気楼協議会 理事 佐藤 トモ子、
(株) システム計画研究所 澤田 維子、三重大学大学院生物資源学研究所 福田 紫都

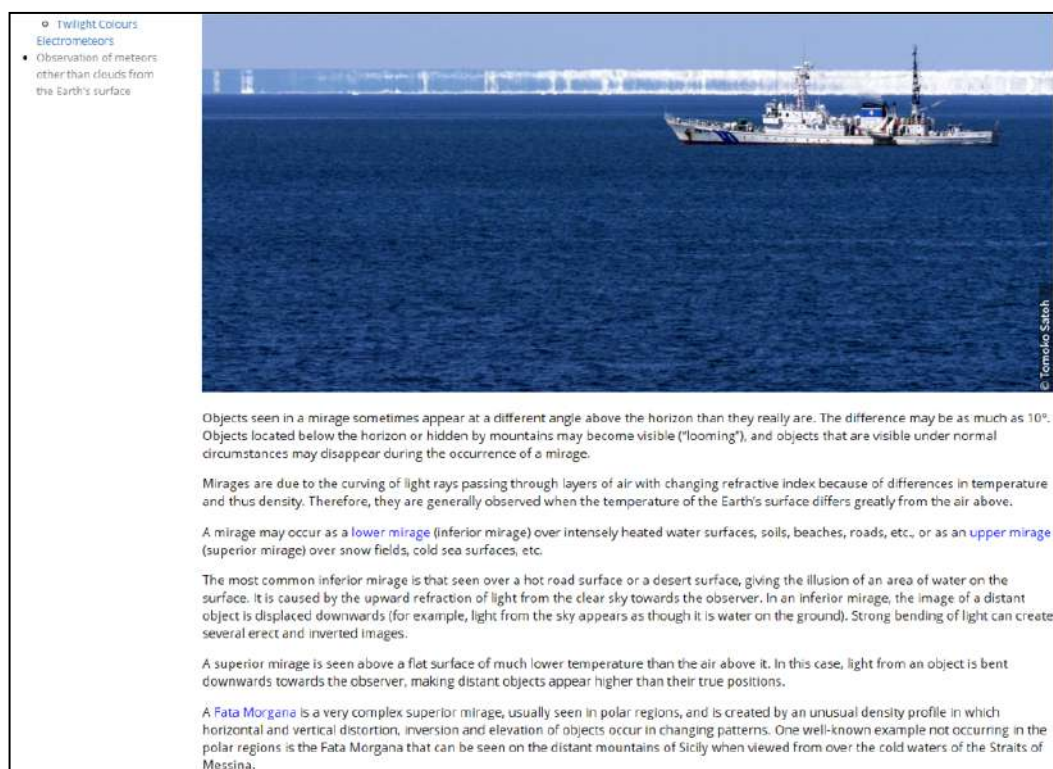
1. 日本蜃気楼協議会 R.7 総会における方向性

魚津・斜里等の蜃気楼について、世界的に見て稀有な場所と現象であることは海外にほぼ知られておらず、さらなる PR 戦略が必要である。その一環で、日本蜃気楼協議会の英語紹介ページを増設することになった。事業の効果としてはインバウンド需要を喚起し、SNS でフォローされ拡散されることを目指すものである。

コンテンツに関しては、現行の日本語版 HP 動画集では北海道と東北のみのため、他地域の中でも特に魚津における動画を掲載すべきであろう。そして動画検索にヒットしつつ、一般の英語圏旅行者にとって楽しい短時間動画を並べることが適当だと考えられる。強力キーワードの **Fata Morgana** を押し出して使うこととし、これは図 1 に示した WMO (世界気象機関) 雲図帳の解説中の「とても複雑な上位蜃気楼」を、魚津で比較的好く見られることをアピールするためである。コンテンツ作成時には、マニアックになり過ぎないこと、周辺の海産物等も紹介し一過性でない滞在を提案すること、魚津埋没林博物館や他要素の見学体験も提案すること等に留意すべきであろう。

2. 英語版 HP の検討

前提となる作成プラットフォームは、現行日本語版 HP と共通の WordPress が、継承性と将来性の観点から有利である。その上で検索上位を目指すためには、HTML 論理的構造化の規正が必要である。これを OJT 的に作業することとし、PT「Mirage Lab.」として現 HP



「蜃気楼資料館」を対象に HTML 規正化を実装し公開した。

図 1.WMO (世界気象機関) International Cloud Atlas (国際雲図帳) の蜃気楼解説

一方で、1 分間程度の上記視点の英語動画の作成も開始し、2025 年 8 月より BGM 付き YouTube 動画を順次公開中である。一般に動画というとビデオ動画を編集するのが常道だが、現在は扱いやすい PowerPoint によるスライドショー動画で作成している。それは、富山市在住の小竹隆氏による蜃気楼写真群を基本材料として使用しているためでもある。なお、英語ナレーションが好適との意見もあり、必要に

応じて後日付加することで対応できる。プロへの制作委託も将来の選択肢であり、その場合も PowerPoint は絵コンテとして活用可能なため無駄にはならない。

PT「Mirage Lab.」の体制は当面、WordPress 担当が佐藤理事と澤田・福田会員である。YouTube 動画の作成・公開担当は宮内副会長が務めており、今般動画材料等を活用しホームページイメージのたたき台を作ってみた。図 2 に示すように、4W1H ボタンから下位画面へ遷移する想定である。



図 2. 英語版 HP のホームページイメージのたたき台（メイン写真は黒田俊之氏撮影）

画面下部で切り替わる写真上に配置した 4W1H ボタンから、下位画面へ遷移する想定

3. 効果および今後想定される展開

スライドショー動画の作成過程で、スチール写真愛好者からの収集という新展開も期待できることに気が付いた。すなわち、魚津蜃気楼研究会員等からの写真や動画を募集し、PT にて簡潔な英文を付加して公開していく道が開けたと考えられる。このため魚津の品揃え後、斜里・小樽・紋別・猪苗代湖・琵琶湖・大阪湾・伊勢湾・不知火海等も随時追加していきたいものである。

今後 SNS で拡散され、英語視聴者増加の芽が出始めた場合の拡張可能性にも触れておきたい。まずはライブカメラ画像を加えれば、リアルタイム性も獲得できる。それからコンテスト等イベントを活用すれば、一般視聴者の増加が期待できる。また魚津市の観光まちづくり会社や国際交流推進員の活用も検討し、動画コンテンツの改善・普及も図りたい。魚津市の友好親善都市はチェンマイ市だが、メッシーナ市・蓬萊市との交流事業を作れば...との夢も広がる。商業面でも、海辺カフェ『+met（たすめつと）』や『海の蜃気楼』・酒造会社等とのコラボにも繋げていきたいものである。こういった拡張のためにも、本当のインバウンド客が何人か現地に來てくれ、SNS 拡散による連鎖反応が起こることを願ってやまない。